

●論文タイトル

DLST が強陽性となったアパルタミドによる薬剤性肺障害の 1  
例

●著者名

福本洋介 1)

神田響 2)

今里優希 2)

佐々木圭 2)

所属先：

1) 京都府立医科大学附属病院呼吸器  
内科

2) 社会医療法人誠光会 淡海医療セン  
ター呼吸器内科

## ●和文要旨

症例は76歳男性。20XX年9月より進行性前立腺癌に対してアパルタミド、デガレリクスによる治療を開始。20XX年10月下旬より咳嗽と労作時呼吸困難が出現し、11月2日に当科を受診。胸部CTで両側肺に多発する斑状すりガラス影を認めた。両薬剤の休止とステロイドパルスにて陰影は速やかに改善した。経過でアパルタミドに対するDLSTが強陽性と判明し、同薬剤による薬剤性肺障害を強く疑った。DLST陽性となったアパルタミドによる薬剤性肺障害の報告はこれまで無く、有用な症例と考え報告する。

## ●日・英キーワード

薬剤性肺障害，アパルタミド，デガレリクス，リンパ球刺激試験

Drug-induced lung injury, Apalutamide, Degarelix,  
DLST (drug induced lymphocyte stimulation test)

## ●短縮タイトル

アパルタミドによる薬剤性肺障害の一例